

# 湘南学園だより

No.102

行 国 学園だより 集 部

●親として、してあげられること

①は、学校でのさまざまな場面に對して情緒的混乱を起してしまった、不安に陥り、神経過敏になる特徴があります。この①は、その原因において、さらに3つのタイプに分けられていて、

## 「こころ・ おだいじに」

理事長 中川一省

虐待、不登校、家庭内暴力、いじめ、若年性うつ、自殺…、子どもにかかる問題が連日マスメディアに取り上げられています。

親とすれば、大変気になるところですが、その兆候や症状も、そしてそれに対する対応法や治療法も千差万別で、高度医療時代といわれる現代にあっても、結果から原因を究明していく、という対処法が現段階では主となっています。

- ① 神経症的不登校
- ② 無気力からくる不登校
- ③ 非行から起る不登校
- ④ 成績不振による不登校
- ⑤ 学校生活に理由がある不登校

ですが、「不登校」にもいろいろあつて、本人は登校を拒否していないのに、行かれない。登校時間になると、気分が悪くなつて、頭痛、腹痛、吐き気などに悩まされ、登校ができない状態となる例もあります。

- a 分離不安型
- b 息切れ型
- c 甘やかされ型

aは、幼児期から継続している場合が多く、母子が共に離れることに不安を感じている、というのが主な特徴で、神経質で過保護な母親、あるいはその逆の、冷たく、干渉的という両極端な育児法が共通した原因として上げられています。さらには、両親の不和や育児に対する見解の不一致などがあるそうです。

bは、親が敷いたレールの上を走られ、文字通り、子どもが突然何らかの起因によつて息切れしてしまう現象をいいます。

cは、家庭生活と学校生活との

では、親として、兆候あるいは症状が認められる子どもに、何がしてあげられるのかということです。まず、親と子のこころの通い合は暖かい対話。これは、簡単なようでいて、知識、経験のある大人には非常に難しいことのようです。鍵から出てきた言葉を無視せずに受け入れていく。ここがスタイルで改善の兆しが見られる

このうち②から④までは、前述した「怖いオヤジの存在」あるいは「ファイト、イッパツ！」型の叱咤激励で乗り越えられた例もあるそうですが、あなごの場合は、いざれも学校の先生との連携は不可欠であり、特に①の場合には、早期に医師やカウンセラーにも相談することで快方に向かっていく例が多い」といっています。

症例は、あくまで統計的なもので、原因是、これら以外にも複合的なものが考えられるということ

では、親として、兆候あるいは症状が認められる子どもに、何がしてあげられるのかということです。まず、親と子のこころの通い合は暖かい対話。これは、簡単なようでいて、知識、経験のある大人には非常に難しいことのようです。鍵から出てきた言葉を無視せずに受け入れていく。ここがスタイルで改善の兆しが見られる

時には、親は勇気を出して「世間性を主張し、自己弁護、自己防衛に必死になります」とカウンセラーハは声を挿えました。最も善のポイントとなるそうです。

多くの場合、「自分の育て方の正当性」

## 近隣の地域社会と湘南学園

学園長 藤岡 貞彦

私立の学校は、公立とちがって、児童・生徒がひろく方々から通ってくるので、近隣の地域社会との縁が薄いのが通例です。私は毎朝、横岸線経由で通勤しているのですが、何人かの在学生と車内で顔を合わせます。東急沿線や、小田原からの通学生も知っています。

しかし、ふりかえって考えてみると、この学園は、「コミュニティ・スクール」として73年前に発足したのです。

当時の公教育にあきたりない松が岡近隣の市民が相談し、「力」と「ちえ」と「資財」をよせあつめて、学園が幼・小・中・高と発展していくときっています。

今日の力づよい学園PTAの力も、そこまで育つていったといえるでしょう。現に、卒業生の方々に、藤沢市民、それも、ごく学園に近い新・旧住民が沢山おられます。

遠距離から通学させている親御さんもおられます。が、学園が藤沢市松が岡という歴史をもつた地域に生まれ育つたことをつよく感じておられることがあります。つまり、近隣の地域社会と湘南学園は、切っても切れないと縁がある、ということです。朝

夕の生徒・教職員の通学路そのものがコミュニティなのですから。

昨年、藤沢市からの紹介もあって、本学園で近隣自治会と提携して防災・防犯の大好きな集会をもらったり、アリーナを近隣の方々に開放して利用していただき、共に手をつないで地域を良くしていく」という機運がたかまづきました。

たとえば、近年アリーナで、防災・防犯の為の住民集会、大きくなつどいがもたれています。今冬、12月10日には、近隣7自治会の共同主催による防災学習会が開かれました。

この日は、恒例のPTAによる地域清掃が行われましたので、両者のタイアップが実現しました。

小学校のたいくく表現まつりに今年はじめて、近隣自治会のリーダーをお招きしましたし、PTAの年末恒例の講演会でも、案内をさしあげています。

とりわけめだつのは、去年はじめて行われた中高学園祭への住民参加です。今年は、2店のバザー出店やスポーツゲームの披露がありました。なかなかの売上だった、と聞いています。グラン・ババ風の盛装した年配の市

民たちが手づくりのクッキーなどをPRしておられたのも、ほほえましい姿です。

なかでも、学園祭の一室を開かれて、湘南学園の73年の歩みを展示されたことは、学園史のなかでも画期的などでしょう。今春、鵠沼公民館・郷土資料展示室で、2月から5月まで、「なつかしき学び舎湘南学園」の歩みが華々しく開かれただけですが、そのエッセイとともに大きな貴重な資料のかずかずが、学園の教室をかざつたのです。当日は500人の来会者がみえた、ということです。

そこには、「湘南学園は、湘南鵠沼に移り住み、恵まれた自然の中で伸び伸びとした個性尊重の自由教育を子弟に与えたい」という、父母の愛情が要となつて1933年に設立されました」とかかれていました。

近隣自治会のリーダーたちは、沢山の卒業生がおられます。先輩の地域リーダーたちの力も借りて、湘南学園が地域社会に開かれ、共に生きていく姿が、70周年後から、力づよくみえてきたことを大きな喜びと感じています。



## 「災害発生時に備えて・・自分のいのちは自分で守る」

保育主任 青木萬里子

避難訓練の活動を通して、「もしも、幼稚園にいる時に地震・（火事）が起きた時、自分のいのちを守るために、どうしたらよいか。」

避難場所は小学校のうんてい（固定避難具）前。避難した後は素早く静かに整列する。避難する時には

時間の予告無しの訓練などを定期的に実施しています。

「お・か・し」（押さない、駆けない、しゃべらない）の約束をひとり一人がしっかりと守ること。など「自分の身・いのちは自分で守る」為にどうしたらよいかを積み重ねていきます。普段、幼稚園では放送で何かを伝達することは無いので、放送チャイムが流れると一瞬にして静まり返ります。「今日は避難訓練の日です。今から幼稚園に地震が起きた時にどうしたらよいかを練習します。うそつこの地震ですから心配しないでください。地震の時の約束を思い出し練習をしましょう。では始めます。」地震の模擬音を合図に、どの場所に身を隠すか、自分で判断し行動していきます。

この日は、保護者の方を対象に、市の災害対策課の方から、ビデオ「阪神大震災」の教訓から、まず自分の身を守るために目頃の備えの大切さや、地域に关心を持つなど日頃の心がけの大切さなどのを教わると同時に、子どもたちの避難訓練に合わせ、ホールで椅子の生活場面を想定しての訓練や避難間の狭い空間に身をかがめ、第一

避難訓練の活動を通して、「もしも、幼稚園にいる時に地震・（火事）が起きた時、自分のいのちを守るために、どうしたらよいか。」について考えてていきます。子どもたちは、わずかな自分の体験から知り得たことやニュースなどで見聞きして知ったこと、自分なりに考えたことなどを出し合い、もしもの時に備えています。体の中でも大切なところはどこか。危険な物は何か。安全な場所はどこか。怪我をして一番悲しむ人は誰なのか。など話し合っていると、色々な疑問がわいてきて、沢山の質問が出てきます。例えば、トイレに入っている時だったら？先生が近くにいなかつたら？外で遊んでいたら？などひとつひとつの疑問にみんなで答えを出しながら不安が無いようになります。その結果、ピアノからは離れる。机の下に身を隠す。身をかがめて一番大事な頭を両手で覆う。外で遊んでいる時には、その場で身をかがめる。近くにいる先生や友だちと一緒にいる。靴は履き替えないで避難する。

避難場所は小学校のうんてい（固定避難具）前。避難した後は素早く静かに整列する。避難する時には「お・か・し」（押さない、駆けない、しゃべらない）の約束をひとり一人がしっかりと守ること。など「自分の身・いのちは自分で守る」為にどうしたらよいかを積み重ねていきます。普段、幼稚園では放送で何かを伝達することは無いので、放送チャイムが流れると一瞬にして静まり返ります。「今日は避難訓練の日です。今から幼稚園に地震が起きた時にどうしたらよいかを練習します。うそつこの地震ですから心配しないでください。地震の時の約束を思い出し練習をしましょう。では始めます。」地震の模擬音を合図に、どの場所に身を隠すか、自分で判断し行動していきます。

避難場所に集まる体験もしていました。

また、災害発生時に備えた「引き渡しカード」にそって、降園時にひとり一人手渡しを実施しています。

保護者の方に「〇〇の母親のなににです。」と名乗り出でいただき、お子さんを引きとると

言う訓練です。親と子と一緒に体験することを切っ掛けに家族で「防災」について話し合う機会を作っています。車が揺れるということで、一瞬面白い気持ちになるようですが、震度6の揺れになると顔つきが変わります。年少、年中の子どもたちは、年長のお兄さんお姉さんが大きくなる起震車の中のテーブルの足に必死にしがみつく姿を目の当たりにすることで地震の強さや怖さを感じとります。

（

地震による被害を最小限にしていくためにピアノには固定器具の取りつけ、園舎の全ガラス窓には飛散防止フィルムを貼るなど予防対策もしています。）



## 一斉配信システムについて 【エマージエンシーコール】

小学校教頭 高橋 慎司

小学校では本年度から緊急連絡網を廃止し、学校から緊急に連絡する必要に対し「一斉配信システム」「エマージエンシーコール（星光社）」を導入することに致しました。

このシステムは電話・携帯電話の音声による連絡だけでなく、電子メール・ファクシミリでも連絡をすることができます。各家庭へはこのシステムの運営先から各家庭に向けて直接配信されます。リレー式の連絡網で問題になる連絡内容が変わってしまうなど、人为的なトラブルは無くなっています。

### 【導入のきっかけ】

このシステムの導入のきっかけは、「個人情報保護法の施行」、「安全管理」、「緊急連絡の徹底」がありました。

「個人情報保護法の施行」により電話番号だけであっても一律に配布することに問題があるのでないかという指摘がありました。施行年度は使用後に回収することを前提に従来の連絡網を配布することにしました。

また、「安全管理」上では保護者の留守をねらった電話番号を聞き出そうとする不審電話があり、番号を聞き出そうとする手口も巧妙になり、電話番号の配布が別な問題につながってくることになりました。

そして、決め手になったのが「緊急連絡の徹底」の難しさということです。従来の連絡網で連絡しようとしても不在が多く、連絡が伝わりにくい状態が出てきました。特に昼間の固定電話への連絡は不在が多く、支障が出ることも多くなっていました。

不審者情報が出て、各家庭に迎えを要請したときに、連絡網の伝わりにくさを実感しました。

そこで、名簿や連絡先を配布することなく家庭に確実に連絡する仕組みを模索していました。その中でこのシステムの紹介を受け、導入につながったわけです。

このシステムは前記のように、各家庭に対して固定電話・携帯電話・電子メール・ファクシミリに対する受信が可能という特徴があります。受信先はその中から六カ所登録でき、直撥連絡しますので、

受信頻度の高いところから登録すれば、確実に連絡されることになります。

その後、個別に確認作業を繰り返し、本格的な運用になりました。

現在、全家庭に配信され、運用している中で、各家庭での設定も受けやすい形に変えているようですが、別にはその都度行い、エラーの確認をしました。

テスト配信ではメールアドレスの打ち間違い、配信先の確認が主なものになりました。

その後、個別に確認作業を繰り返し、本格的な運用になりました。

現在、全家庭に配信され、運用している中で、各家庭での設定も受けやすい形に変えているようですが、別にはその都度行い、エラーの確認をしました。

テスト配信ではメールアドレスの打ち間違い、配信先の確認が主の

### 【四月に運用開始】

導入がきまるると、運用開始は少しでも早く確實に実施できることを考え、準備に入りました。四月

の年度の切り替えに一斉に開始することがよいと判断し、作業が開始されました。

在校生の各家庭には一月に次年度から連絡網を廃止し、「一斉配信システム」を導入することを伝えました。

現二年生から六年生の保護者は二月中にID番号とパスワードを配布し、登録作業を始めました。

登録作業は、各家庭で行っていました。だき、登録作業に不安を感じている方には、学校内で登録の説明会を行い、対応しました。

### 【13回の配信】

十一月までに13回（クラス・学年・全校含め）の配信を行いました。

その中には大雨による全校の休校、下校時間の変更の連絡にもスムーズに連絡ができました。また、野外活動の解散時刻の大変な変更も保護者に徹底させることができたことは成果の一つでした。

配信は一斉にといつても全校規模になると第1通報先全体に伝わるのに三十分程度時間差があることもあり、運用上の課題も出てきました。しかし、一人ひとりに配信されていることが確認でき、内容を家庭が確認したことが分かる仕組みであることは確かです。

今後この仕組みにあつた使い方を考えていくことが求められます。

使いやすさと運用上の課題に対応し、学校から各家庭に確実な情報配信に努めたいと思います。

### 【13回の配信】

十一月までに13回（クラス・学年・全校含め）の配信を行いました。

その中には大雨による全校の休校、下校時間の変更の連絡にもスムーズに連絡ができました。また、野外活動の解散時刻の大変な変更も保護者に徹底させることができたことは成果の一つでした。

配信は一斉にといつても全校規模になると第1通報先全体に伝わるのに三十分程度時間差があることもあり、運用上の課題も出てきました。しかし、一人ひとりに配信されていることが確認でき、内容を家庭が確認したことが分かる仕組みであることは確かです。

今後この仕組みにあつた使い方を考えいくことが求められます。

使いやすさと運用上の課題に対応し、学校から各家庭に確実な情報配信に努めたいと思います。

## 中高の防災について 教頭志賀潔

関東大震災が起きてから八十年以上、この月日が流れ、この日、すなはち九月一日を防災の日としています。この日は、大震災の教訓を忘れないようになると共に、地震だけではなく、台風や大雨などの自然災害について、各家庭や企業、公共施設や官庁などで、どのように避難するか、どのようにしたら被害を最小限に止められるか、などをみんなで考えていくことがあります。

中学校高等学校でも、毎年、この日に合わせて、避難訓練を行っています。

地震の放送を流し、避難開始指示、避難、集合場所での整列、点呼などの一連の行動を練習します。その後に、避難訓練の評価を生徒に話したり、また、今回の中学校の反省に立って、次年度以降の訓練の方法等についての検討をしていきます。

さて、保護者の方やご家族の方が一番心配されているのは、お子さんが、登下校中や学校にいる時などに大きな地震に遭遇した場合は、どのようになるのだろうかと

いうことではないでしょうか。学校内にいる場合については、学校で対応していきます。しかし、登下校中の場合は、状況によって異

なつてきます。家に戻るか、学校へ行くか、あるいは避難所に行くかなど、生徒がその場で判断しなければならない状況があります。

警戒宣言が出された時の場合は、地域によって対応の方法が異なっています。特に、地震防災対策強化地域（注）の場合は大きく異なります。警戒宣言が出された場合、強化地域では、電車やバスなどの公共交通機関は全て運行を停止することになります。具体的には、強化地域内への列車の進入は、原則として規制されますので、東海道は藤沢以西で運行休止、相模線と御殿場線は運行休止となります。私鉄では、小田急小田原線は相武台前以西で運行休止、江ノ島線は藤沢以西で運行休止、箱根登山鉄道、伊豆箱根鉄道、大雄山線は全線運行休止となります。その他の鉄道は運行するようです。

さて、学校としては警戒宣言が出された場合はどのように対処す

ります。

このままでは、学校に留め置くことも考えています。生徒諸君にとつては、学校にいつまでもい

るということが不安になる場合があります。このような場合には、近くの知り合い宅などに、一時避難できるところがあれば、生徒た

ちも安心かと思います。

ここでは、地震ということで述べましたが、火災や台風、大雨などに対する備えというものが必要になっています。

中高生の場合は、小学生と違つて多くの状況からどのようにすればよいかというある程度の判断が出来ると思います。もちろん中学生一年生と高校三年生とでは比較にならないかと思いますが、ある程度の判断が出来ると思います。しかし、大人でさえ判断が難しいところもあります。中学生や高校生ならなおさら判断に困ることがあるかもしれません。生徒たちが判断をするにもある程度の知識や材料が必要です。しっかりとご家庭で話し合って、いざというとき、どのようにすればよいか、どのような方法を決めておくことが必要です。特に登下校時や、遊びなどで

防災についてはもう少し細かく整備していくなければならないと考えています。各ご家庭でも、いざというときのために、しっかりと準備しお子さんと話しあつてもらいたいと思います。

ニッポン放送では、県内の私立小学校・中学校・高等学校の安否情報を緊急時には放送することになっています。県内を十四ブロックに分けていますが、本校は第十一ブロック（藤沢市・茅ヶ崎市）に所属しています。また、本校のホームページでも可能な限り掲載できればと考えています。

家族で話し合っていただく必要があります。

学校の安否情報は次のようにしてあります。

（注） 県内の地震防災対策強化地域は、平塚市、小田原市、茅ヶ崎市、秦野市、厚木市、伊勢原市、海老名市、市南足柄市、高座郡寒川町、中郡大磯町、同二宮町、足柄上郡中井町、同大井町、同松田町、同山北町、同開成町、足柄下郡箱根町、同真鶴町、同湯河原町の八市十一町となっています。

ニッポン放送では、県内の私立小学校・中学校・高等学校の安否情報が緊急時には放送することになります。県内を十四ブロックに分けていますが、本校は第十一ブロック（藤沢市・茅ヶ崎市）に所属しています。また、本校のホームページでも可能な限り掲載できればと考えています。

# 「らんらんにこにこらんど」

年長組担任 永野繪理香

十月十五日(日)中高のアリーナで「らんらんにこにこらんど」を行いました。

「らんらんにこにこらんど」は全て子ども達の手作りで進められます。

## 〈旗〉

アリーナを飾る旗は、ももさん(年少児)は給の具をティッシュにしみこませポンポンとスタンプをおす旗。すみれさん(年中児)は、給の具をにじませた旗。さくらさん(年長児)はクレヨンで自分のオリジナルの旗を描きました。

## 〈係の仕事〉

司会、資材の準備や片付けなどもさくらさんの仕事です。司会を選んだ子どもは「何ていうゲームをするの?」「どんなところがかっこいいの?」などと競技をする学年の先生に聞き、自分達で言葉を考えて仲間と一緒に生懸命覚えて、当日プログラムの紹介をしていました。

資材準備の子どもは、自分で何色のものを運ぶかなどを相談したり、すみれさんの競技の中で、ボルトが転がらないようにおさえたり、ももさんが手作り電車に乗つて走つてくる競技では、踏み切りました。

ダンスをひときわ引き立てるために身に付けるものも手作りです。ももさんは三角帽子、すみれさんは太鼓のバチ、さくらさんはリストバンドとヘッドバンドを作りました。作り上げると「かわいいでしょ!」と色々なクラスに見せにいったり、身につけてプロックやおまごとをしたり「先生、ダンスの曲を流して!」といつてお部屋や園庭などで見せ合う姿や、学年に園庭なく交じり合つて踊る姿なども日常の遊びの中で沢山されました。

（小道具）

ダンスをひときわ引き立てるために身に付けるものも手作りです。ももさんは三角帽子、すみれさんは太鼓のバチ、さくらさんはリストバンドとヘッドバンドを作りました。作り上げると「かわいいでしょ!」と色々なクラスに見せにいたり、身につけてプロックやおまごとをしたり「先生、ダンスの曲を流して!」といつてお部屋や園庭などで見せ合う姿や、学年に園庭なく交じり合つて踊る姿なども日常の遊びの中で沢山されました。

出来上がったメダルを運ぶ時に3人1組となり、折り紙で「じやばら折り」した物を3人で合体させ1つのメダルを作りました。出来上がったメダルを運ぶ時に3人で落とさないようにそつと歩いている姿もあり、子ども達の思いがたっぷり入った素敵なメダルができました。

## 〈ペアダンス〉

日々から異年齢児との交流を大切にしながら保育を進めていますが、「らんらんにこにこらんど」の中でも、さくらさんがすみれさんに、ダンスを教えてあげました。

「私はお泊り保育の時に踊つていている姿もあり、子ども達の思ひがたっぷり入った素敵なメダルができました。

（ダンスや競技の練習を進める中で「楽しいな」「またやりたい!」という思いが「お家の人に見せたいな!」という思いにふくらみ十月の「らんらんにこにこらんど」を迎えたしました。

役となりながら競技のお手伝いもしました。さくらさんは「どの仕事も大切だから一人でもやらない人がいたら困るんだよね」などと聞かれたのも、昨年度自分がさくらさんからメダルをもらつてうれしかった思いから自然と出てきた言葉でしょう。今年はさくらさんが3人1組となり、折り紙で「じやばら折り」した物を3人で合体させ1つのメダルを作りました。出来上がったメダルを運ぶ時に3人で落とさないようにそつと歩いている姿もあり、子ども達の思ひがたっぷり入った素敵なメダルができました。

様々な所で異年齢児と関わり合った。大きな行事は、その日限りのイベントではなく、その過程やその中の余韻を大切にしながら、これからも様々な場面で異年齢児と関わり合い、遊びや活動を楽しんで行きたいと思います。



06 929

## 10 / 27 学年活動の日

教務主任 鈴木 努

小学校では、毎年十月の下旬に学年で取り組む活動の日を設定しています。今年は、十月二七日(金)に実施しました。どの学年も晴天に恵まれ、楽しい秋の日を過ごすことができました。今回は、それまでの学年での取り組みを紹介します。

一年生は、学校出発、小田急線を利用して、片瀬江ノ島駅から徒歩で江ノ島を目指しました。江ノ島の展望台からは、丹沢の山々、どこまでも続く太平洋など、三六〇度の眺めを堪能しました。

また、お友達と仲良く江ノ島コッキング園の広場で食べたお弁当は、いつもの教室とは違い格別なものだったと思います。

これは、翌日書いた、遠足の作文です。

「きのう、えのしまへ、えんそくにいきました。かたせえのしまのえきは、りゅうぐうじょうみたいでした。いわやのどうくつには、りゅうがまちかまえていました。りゅうのおとがして、わくわくしました。さむえるこつきんぐえんでは、

てんほうだいにのほりました。たかくて、けしきがよくみました。おべんとうのあとのおかしこうかんが、たのしかつたです。」



一年生は、藤沢駅よりバスで、横浜市長津田にある子ども天国へ行きました。バスの利用は、若干往復に時間がかかりましたが、とても楽しいバス遠足となりました。園内では、牧場があつて牛がのんびり遊んでいたり、モルモットやうさぎとふれ合う場所もあり、子どもたちにとっては、有意義な一日となりました。

三年生は、大磯にある湘南平に行きました。一〇八人が、一歩一歩山の頂を目指して、心地よいハ

イギングを楽しみました。  
頂上にある展望台からは、東は、江ノ島、西は、箱根の山など、とても気持ちの良い眺めでした。

みんなで登ったあとのお弁当は、なによりのどちらであつたにちがいありません。お弁当の後は、ハイキングの疲れも忘れたのかアスレチックでもう一遊び。学年みんなで楽しく過ごせました。

四年生は、学校出発で、引地川河口周辺で、「日を過ごしました。海に面した広場で、ボール遊びや鬼ごっこなど、だれに気兼ねすることなく思う存分遊ぶことができました。

河口からの江ノ島がきれいに見えました。

四年生は、学校出発で、引地川河口周辺で、「日を過ごしました。海に面した広場で、ボール遊びや鬼ごっこなど、だれに気兼ねすることなく思う存分遊ぶことができました。

河口からの江ノ島がきれいに見えました。



五年生は、体験学習を目標に小田原周辺で一日を過ごしました。

体験は、小田原提灯グルーブ、和菓子グルーブ、寄木グルーブ、干物グルーブの四グルーブに分かれ取り組みました。

六年生は、この学年の日と翌日の土曜日を使って、伊豆城ヶ崎の一泊二日のプログラムを組みました。

ここでのメインは、二日目のスノーケリングです。

「私は、「海ってあんまり好きじゃないなーあー。」と思つていました。ゴミはたくさんあるし、おぼれたりとかこわいし、クラゲとかもこわいし…。でも、伊豆の海に入ったとたん…そんな思いがどこかへとんでいつてしましました。「海ってこんなにきれいだつたんだあー。」と思つたりもして、四年の時に入った江ノ島の海は、入ったとたんに深くてこわかったけど、伊豆の海は、まったくがいました。」

といった六年生女子の作文もありました。

との学年も、充実した学年の日となりました。

六年生は、この学年の日と翌日の土曜日を使って、伊豆城ヶ崎の一泊二日のプログラムを組みました。

六年生は、この学年の日と翌日の土曜日を使って、伊豆城ヶ崎の一泊二日のプログラムを組みました。

## 中高生徒会指導主任　荒木 伸浩

### 鵠沼の「地域のお祭り」を目指して



学園祭直前に、近隣の方から1本の電話が入りました。「学園祭で売られる焼き鳥を買いたいのだが、持ち帰りは出来ますか? 家でピールでも飲みながら食べたいのですが。」というものでした。

学園祭の数日前、しとしと冷たい雨が降りしきる中、学園祭実行委員と生徒会総務委員の子ども達が、手分けして近隣の約400世帯に学園祭のパンフレットと開催のお知らせの手紙を配つて回りました。その甲斐あってのことでしょうか、こうしたお電話をかけたのは、湘南学園の学園祭を「地域のお祭りに発展させよう!」と一生懸命に準備して来た子ども達の願いが通じたことを思わせてくれる出来事でした。

学園祭当日、大グラウンドではあいにくの雨の中ではありました  
が、鵠沼地域の5つの自治会の方々によるフリーマーケットが開かれました。ニコニコ自治会からは手作りクッキーの超人気店の出店、さらには、鵠沼在住のフランス人の方によるペタングというフランスの球技の実演紹介や中高ホールを使ってのフランス語講座など、

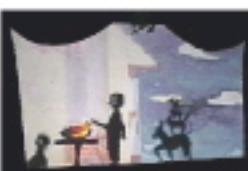
今年は、生徒会として映画演劇部

門参加を推進し、その結果、5つのクラスがこの部門にチャレンジしました。その中には、最大限の工夫を凝らして教室を見事な文化性の高い影絵劇場を作りかえた企画や、教室に“笑い”的空間を創り出したエンターテイメントも登場しました。

また、担任の先生も映画のキャストの一員となつて学園ドラマを例のPTAバザーが盛大に開かれ、中高テクノエリアでお店を開いた高2のお母様方による「松が岡食堂」も満員御礼状態でした。メディアエリア3Fの図書室の隣りの部屋では、同窓会の方々による「湘南学園の歴史展」が催されました。その部屋を訪れてみると、学園の歴史が伺える様々な写真が展示してありました。そこには、それらの写真を懐かしくそのままぞき込む卒業生の方々の何とも嬉しそうな笑顔があふれています。その部屋で、同窓会の幹事の方々にいろいろなお話を伺うことことができ、湘南学園が歴史的に鵠沼の文化の発信地としての役割を果たしてきたことが分かりました。

「こんな素晴らしい学校の教員をやらせて戴けるなんて本当に幸せだなあ!」と、改めて湘南学園の教壇に立たせて戴いていることへの喜びを感じさせてもらつた次第です。

子ども達の取り組みはというと、子ども達はけてしまったほど多くの人々が学園に訪れてくれました。来年は、6,000冊、いや7,000冊を用意して、この「地域におられた地域のお祭り」を盛り上げ、学園祭での取り組みを通じて、子ども達には大きく大きく育つていってもらいたいと思っています。



カーニバル

ども達を強く優しくしてくれたものだと思います。

湘南学園中高の学園祭は、地域の方々や保護者の皆様、卒業生の方々、そして、元気一杯の子ども達によって創り上げられています。5,000冊用意したパンフレットは、学園祭2日目の1時30分にはすべてはけてしまつほど多くの人々が学園に訪れてくれました。来年は、6,000冊、いや7,000冊を用意して、この「地域におられた地域のお祭り」を盛り上げ、学園祭での取り組みを通じて、子ども達には大きく大きく育つていってもらいたいと思っています。

# 中学三年研修旅行

中3学年主任 河本 浩一

生徒二〇三名、引率教員八名、そして添乗員二名の計二二三名の大旅行団で、十一月七日から十一日までの四泊五日の研修旅行を行いました。この旅行を湘南学園では、約十五年前から修学旅行と言わざる、研修旅行と呼んでいます。

というのは、この旅行をただの物見遊山の観光旅行にするのではなく、生徒たちにとって、生き方を

も変える大きな出会いの旅行にしたいという願いを込めて、始まつたものだからです。

研修旅行の計画・企画は、その他の行事と同じようにできるだけ、生徒の自主的な行事にするために

旅行委員会を組織しました。四月の段階から各クラス二名を募り、週に一回の会議(学習会)を定期化し進めてきました。最も基本に押されたことは、旅行を楽しい意義のあるものにするための前提は、事故がなく安全に全員が帰つくるということです。そのためには、旅行委員としてどうすればいいのか、何を目標にするかを考えさせ計画の基礎を作り上げてきました。

この研修旅行のテーマは、地域の人々との交流し、自然とふれあい、原爆という事実を通して平和につ

いて考えるということです。そして、集団行動を通じて、個々の自立を促すことです。この一連の企画は、ここ何年か継続しているもので、毎年、学年の生徒に合わせて少しずつ変化している研修旅行となっています。

日程を追ってこの旅行について報告します。初日の吉和中との交流は、もうかれこれ十年ぐらいになります。山間部の学校なので生徒数も、一年から三年まで入れてもわずか、三十名足らずですが、交流会では、その生徒達が、学年毎に吉和中学校の生活や吉和の自然や産業や特徴を学年毎に発表しました。これを受けて、今年は、私たちも学園や湘南地域のことについて発表し、また、昨年中学二年で学園祭の時に作った映画の上映を行い、少しでも湘南の雰囲気が伝わればということで準備しました。総合の司会は、学園の旅行委員が行いましたが、最初緊張していましたが、吉和の生徒達も、次第に柔らかくなり、予定の時間を三十分も超えるくらい盛り上がる交流会となりました。

二日目には、地元の方をインストラクターとして、十一種類のブ

ログラムを用意してくださり、事前に希望をとった上で体験学習を実施しました。開会式の直後から午後三時過ぎまでの一日を通して、毎年、学年の生徒に合わせて少しずつ変化している研修旅行となっています。

日程を追ってこの旅行について報告します。初日の吉和中との交換は、もうかれこれ十年ぐらいになります。山間部の学校なので生徒数も、一年から三年まで入れてもわずか、三十名足らずですが、交流会では、その生徒達が、学年毎に吉和中学校の生活や吉和の自然や産業や特徴を学年毎に発表しました。これを受けて、今年は、私たちも学園や湘南地域のことについて発表し、また、昨年中学二年で学園祭の時に作った映画の上映を行い、少しでも湘南の雰囲気が伝わればということで準備しました。総合の司会は、学園の旅行委員が行いましたが、最初緊張していましたが、吉和の生徒達も、次第に柔らかくなり、予定の時間を三十分も超えるくらい盛り上がる交流会となりました。

二日目には、地元の方をインストラクターとして、十一種類のブ

## 日本各地での体験を満喫 ～高2研修旅行を終えて～

高2学年主任 緒方 哲也

10月23日から4泊5日の日程で高2の研修旅行が行われました。

今回の研修旅行は、北海道（生徒41人・長崎（同24人）・鹿児島（同31人）・沖縄（同44人）の4コースでした。そのうち北海道では札幌から約30km西にある長沼町で、長崎では長崎県北部の松浦沖約7km地点に浮かぶ青島で、それぞれ生徒達が各家庭に民泊しながら農業や漁業を体験するプログラムを組みました。また、鹿児島では日本で最初の世界自然遺産になつた屋久島へ、沖縄では日本最大の亜熱帯マングローブ自然林を有する西表島まで足を運びました。

北海道コースでは先ず日本の最北端の稚内から猿払村へ。生徒の第一声は「寒い！」でした。「夜はエブシカがうろついて危険なので外出しないように」とのホテルの注意には生徒達もびっくりしました。そして民泊地の長沼町では大豆の収穫や脱穀、キャベツの出荷準備やビニールハウスでの作業、トラクターの整備などを経験しました。民泊先では料理と一緒に作ったり、夜には温泉や、都会では想像もつかない美しい星空を見に連れて行ってもらつたりと、現地の皆さん

の暖かい歓迎ぶりには生徒も大感激。旅行の後半では「開拓の村」や白老のボロトコタンを訪問。アイヌ文化や演奏の実感体験もきて、北海道ならではの体験を満喫してきました。

長崎コースでは、青島での民泊体験が生徒達の素晴らしい思い出となりました。民泊先では地元なまではの「さつま揚げ」や「押し寿司」の料理体験。ベラやカサゴを釣り上げて、お刺身・お吸い物・フライや煮物などにして、とりたての魚を自分でさばいて作る夕食はまさしく「絶品」でした。そして、3日目には沖まで漁船を出した冲釣りを実施。不思議なことにそういう場面で活躍するのは女子生徒達で、一人で10匹以上釣り上げた生徒もいました。青島での離村式では、みんなで抱き合つたりして、涙・涙のお別れです。お札の場面では生徒達の本当の思いが詰まつた素晴らしい挨拶をしてくれました。青島を後にして訪れたのは火砕流の被害を受けた雲仙普賢岳、そして長崎での原爆資料館では平和学習を行いました。

鹿児島コースでは屋久島に3泊

の巨大さに息をのみながら、到着後は長崎県北部の松浦沖約7km地点に浮かぶ青島で、それぞれ生徒達が各家庭に民泊しながら農業や漁業を体験するプログラムを組みました。また、鹿児島では日本で最初の世界自然遺産になつた屋久島へ、沖縄では日本最大の亜熱帯マングローブ自然林を有する西表島まで足を運びました。

北海道コースでは先ず日本の最北端の稚内から猿払村へ。生徒の第一声は「寒い！」でした。「夜はエブシカがうろついて危険なので外出しないように」とのホテルの注意には生徒達もびっくりしました。そして民泊地の長沼町では大豆の収穫や脱穀、キャベツの出荷準備やビニールハウスでの作業、トラクターの整備などを経験しました。民泊先では料理と一緒に作ったり、夜には温泉や、都会では想像もつかない美しい星空を見に連れて行ってもらつたりと、現地の皆さん

の暖かい歓迎ぶりには生徒も大感激。旅行の後半では「開拓の村」や白老のボロトコタンを訪問。アイヌ文化や演奏の実感体験もきて、北海道ならではの体験を満喫してきました。

長崎コースでは、青島での民泊体験が生徒達の素晴らしい思い出となりました。民泊先では地元なまではの「さつま揚げ」や「押し寿司」の料理体験。ベラやカサゴを釣り上げて、お刺身・お吸い物・フライや煮物などにして、とりたての魚を自分でさばいて作る夕食はまさしく「絶品」でした。そして、3日目には沖まで漁船を出した冲釣りを実施。不思議なことにそういう場面で活躍るのは女子生徒達で、一人で10匹以上釣り上げた生徒もいました。青島での離村式では、みんなで抱き合つたりして、涙・涙のお別れです。お札の場面では生徒達の本当の思いが詰まつた素晴らしい挨拶をしてくれました。青島を後にして訪れたのは火砕流の被害を受けた雲仙普賢岳、そして長崎での原爆資料館では平和学習を行いました。

鹿児島コースでは屋久島に3泊

の巨大さに息をのみながら、到着後は長崎県北部の松浦沖約7km地点に浮かぶ青島で、それぞれ生徒達が各家庭に民泊しながら農業や漁業を体験するプログラムを組みました。また、鹿児島では日本で最初の世界自然遺産になつた屋久島へ、沖縄では日本最大の亜熱帯マングローブ自然林を有する西表島まで足を運びました。

北海道コースでは先ず日本の最北端の稚内から猿払村へ。生徒の第一声は「寒い！」でした。「夜はエブシカがうろついて危険なので外出しないように」とのホテルの注意には生徒達もびっくりしました。そして民泊地の長沼町では大豆の収穫や脱穀、キャベツの出荷準備やビニールハウスでの作業、トラクターの整備などを経験しました。民泊先では料理と一緒に作ったり、夜には温泉や、都会では想像もつかない美しい星空を見に連れて行ってもらつたりと、現地の皆さん

の暖かい歓迎ぶりには生徒も大感激。旅行の後半では「開拓の村」や白老のボロトコタンを訪問。アイヌ文化や演奏の実感体験もきて、北海道ならではの体験を満喫してきました。

長崎コースでは、青島での民泊体験が生徒達の素晴らしい思い出となりました。民泊先では地元なまではの「さつま揚げ」や「押し寿司」の料理体験。ベラやカサゴを釣り上げて、お刺身・お吸い物・フライや煮物などにして、とりたての魚を自分でさばいて作る夕食はまさしく「絶品」でした。そして、3日目には沖まで漁船を出した冲釣りを実施。不思議なことにそういう場面で活躍するのは女子生徒達で、一人で10匹以上釣り上げた生徒もいました。青島での離村式では、みんなで抱き合つたりして、涙・涙のお別れです。お札の場面では生徒達の本当の思いが詰まつた素晴らしい挨拶をしてくれました。青島を後にして訪れたのは火砕流の被害を受けた雲仙普賢岳、そして長崎での原爆資料館では平和学習を行いました。

## 2006年度 高校2年研修旅行



長沼町農家でのキャベツの出荷作業（北海道）



白老ボロトコテン村長像の前で（北海道）



長崎平和公園で全員集合（長崎）



青島の漁船の上でハイ！ポーズ！！（長崎）



屋久島千尋の滝をバックに（鹿児島）



屋久島縄文杉の前で（鹿児島）



沖縄首里城正殿前で記念撮影（沖縄）



西表島仲間川をカヌーで上流へ（沖縄）

# 学 校 法 人 か ら

## 【理事会報告】

主な議題

総合建設委員会から

施設管理・整備・修繕。

東京電力依頼電線移設工事

中高隣地利用計画

環境測定(揮発性物質の検査)

幼稚園

3才児ブーン改修工事

隣地境界フェンス工事

遊具交換工事

小学校

プール塗装・排水工事

大グランド補修工事  
施設漏水修繕工事  
女子トイレ交換工事

- 教育費援助要綱及び細則について
- 隣地土地・建物の件
- 事務室分室化後の現状と課題
- 幼稚園改修工事について
- 裁判について(報告と検討)
- 諸規程規則の見直しと改訂(就業規則、給与規則、経理規程、事務分掌規程、職務権限規程、等)
- 学内会計、経理整備計画について
- 労使交渉回答について
- 学校検査報告
- その他

## 【理事会開催報告】

第8回定期理事会	7月29日
第9回定期理事会	9月9日
第10回定期理事会	10月14日
臨時理事会	10月28日
緊急理事会	11月4日
第11回定期理事会	11月25日

## 【評議員会開催報告】

7月29日開催

主な議題

- 裁判経過報告
- 平成17年度事業報告
- 学校検査報告
- 平成18年度事業計画
- その他報告事項

今 の 後 定

【1月】

【3月】

28日	27日	26日	24日	21日	17日	16日	2日	9日	幼	小	3学期始業の日
幼	幼	小	幼	小	中高	中高	まめまき	(~3日)	中高	中高	5年学年末テスト
					中学入学試験(~3日)	中学入学試験(~3日)					学年末試験(~7日)
					避難訓練(火事)	避難訓練(火事)					休園・3年保育半日入園
					生徒休校	生徒休校					年長懇談会
					制作展	制作展					年少懇談会
					制作展・器楽発表会	制作展・器楽発表会					誕生会
					年長子ども会	年長子ども会					誕生会
					新1年生学年入学	新1年生学年入学					期末休み・児童休校
					児童体操	児童体操					高校卒業式
					2年保育半日入園日	2年保育半日入園日					修了の日・年少登園
					(~2日)	(~2日)					修了式のびる花渡し
					個人面談(~5日)	個人面談(~5日)					教科書販売・掃除
											修(卒)業式

